

安全上のご注意

- ご使用になる前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お読みになったあとは、お使いになる方がいつでも見られるところに、必ず保存してください。

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される内容を示します。 (物的損害とは、家屋・家財・家畜・ペット等にかかわる拡大損害を示します。)

図記号の意味と例

	⊘は、「してはいけないこと」を意味しています。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。(左図の場合は、「分解禁止」を示します。)
	●は「必ずすること」を意味しています。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。(左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を示します。)

警告

禁止	取り付けできない天井・取り付けできない配線器具には無理に取り付けない。 ●取り付けできない天井 ・凹凸のある天井(格子天井・船底天井・竿縁天井) ・傾斜した天井 ・取り付け部のまわりに凹凸や極端な突出部がある天井 ・簡単にたわむ天井 取り付けられた場合でも火災・感電・落下してけがの原因になります。 ●取り付けできない配線器具 ・電源端子が露出しているもの ・破損しているもの ・取り付けが不十分でグラグラするもの ・ケースウェイに取り付けてあるもの ・配線だけのもの ・出しろが22mmを超えているもの 火災・感電・落下してけがの原因になります。		
禁止	電源は交流100V以外で使用しない。 火災・感電の原因になります。 本体のすき間にピンや針金などの金属物等、異物を入れない。 感電・けがの原因になります。 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだりしない。 火災・感電の原因になります。 室内専用なので、屋外では使用しない。 器具周囲温度5℃～35℃の範囲内で使用してください。 火災・感電の原因になります。 ストーブなど温度の高くなるものを本製品の近く・真下に置かない。 火災・故障の原因になります。 羽根とスピナーとカバーを正しく取り付けずに運転をしない。 けが・故障の原因になります。	指示	取り付けや取りはずし、お手入れをするときは、必ず電源を切る。 感電・けがの原因になります。 引掛シーリングは奥までしっかり差し込む。 感電・ショート・発火・落下の原因になります。 調光機能のついた電源(壁スイッチなど)は使用することができないので、電気工事士資格取得者に交換工事を依頼する。 火災・故障の原因になります。 工事は販売店・工事店などに相談してください。 引掛シーリングの刃および刃の取り付け面にホコリが付着している場合はふきとる。 ホコリが付着したまま引掛シーリングを差し込むと、ショート・火災の原因になります。 お手入れ後、羽根とスピナーとカバーをしっかりと固定する。 締め付けが不十分だったり、正しく取り付けられていないと、けが・故障の原因になります。
使用禁止	異常時(こげ臭い、発煙など)は電源を切り、使用しない。 火災・感電の原因になります。	分解禁止	分解しない。また、修理技術者以外の人は修理しない。 火災・感電・けがの原因になります。修理は販売店またはドワンジャお客様相談室(裏表紙参照)にご相談ください。

警告

 ぬれ手禁止	ぬれた手で、取り付け作業や取りはずし作業をしない。 感電の原因になります。	 水ぬれ禁止	本体を水につけたり、水をかけたりしてぬらさない。防水仕様にはなっていないため、浴室など湿気の多い場所や、常時温度が高い場所への設置はしない。 ショート・火災・感電の原因になります。
---	--	--	---

注意

 禁止	点灯中や消灯直後は熱くなっているため器具に触れない。 やけどの原因になることがあります。	 禁止	リモコンの電池を交換するとき、新旧の乾電池を混ぜて使用しない。 故障の原因になります。
	本製品の一部分が破損した場合そのまま使用を続けない。また破損した部分に直接触れたりしない。 けが・やけど、落下の原因になることがあります。		付属の取付金具とリモコンは本製品専用のため他製品に使用しない。 故障の原因になります。
	ものをぶついたり、衝撃をあてない。 本製品の落下による、けが・やけどの原因になります。		ガードにハンガー等のものを掛けない。 火災・故障の原因となります。
	LED光源を直視しない。 目に悪影響を及ぼす原因になります。		カバーは確実に取り付ける。 落下してけがの原因になります。
	ラジオやテレビなどの音響機器・映像機器を近くで使用しない。 雑音の原因になることがあります。使用する場合はできるだけ離して使用するようにしてください。		ワイヤーはフックを確実に取り付ける。 落下してけがの原因になります。
	風をからだに、長い時間続けてあてない。 健康を害することがあります。		カバーを取付するときは、羽根取付用スピナーをしっかり締めるようにする。本体は確実に固定してから使用する。 破損・故障・異音などの原因になることがあります。
	回転中、ファンの中に指などを入れない。 けがの原因になります。		天井の材質によっては、変色・変形することがあるので十分注意する。 光を発し、熱も持つ機器のため、変色・変形の原因になります。
	髪をガードに近づけすぎない。 髪が巻き込まれ、けがをする恐れがあります。		設置して長期間使用すると、外部に異常がなくても内部の劣化は進行するので、点検する。 点検せずに使用を続けると、火災、落下による感電、けがの原因になります。
 指示	次のようなところでは使わない。 ●レンジなど炎の近く ●引火性のガスがあるところ ●雨や水しぶきがかかるところ 変色・変形・炎の立ち消え・火災・感電の原因になることがあります。	 指示	リモコンでスイッチを切ると、常時待機電力がかかっているため、長時間点灯しない場合は、電源(壁スイッチなど)を切る。 節電になります。
	お手入れの際は住宅用洗剤・シンナー・ベンジン・アルコール・磨き粉などを使わない。 変色・変形・感電・故障の原因になります。		被照射物との距離は1m以上あける。 色あせ、変色の原因になります。

乾電池に関する安全上の注意

■電池の使い方を誤ると、電池が液漏れ、発熱、破裂したり、けがや機器故障の原因となるので、次のことを必ず守ってください。

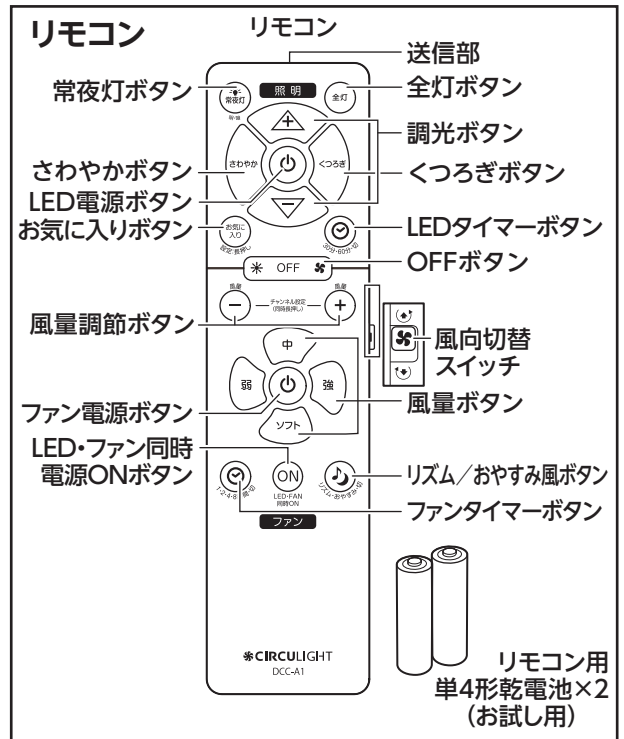
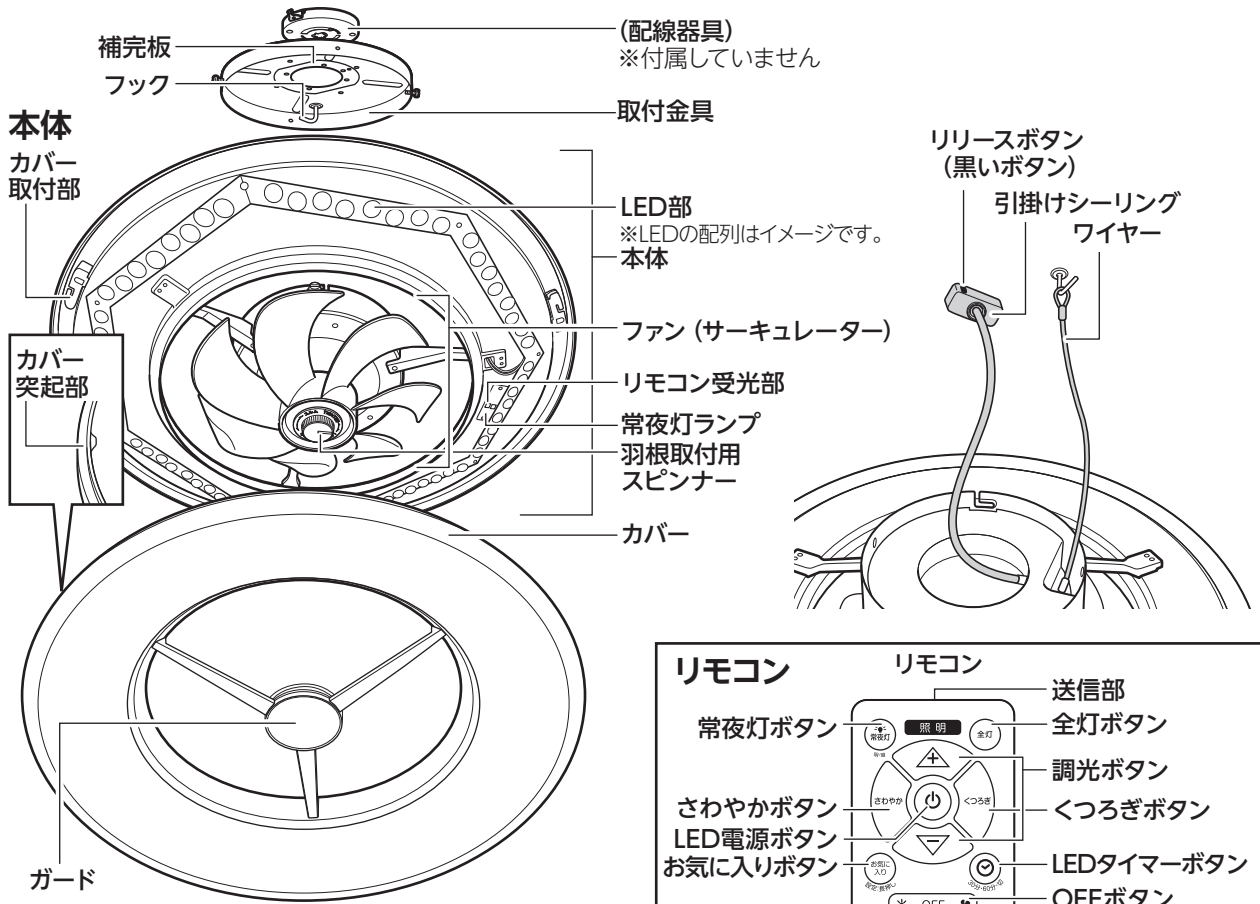
警告

- 電池は乳幼児の手の届かない所に置いてください。万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。
- 電池のアルカリ液が目に入ったときは失明など障害のおそれがありますので、すぐに多量のきれいな水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- 電池を火に入れたり、加熱、分解、改造などしないでください。
- 電池の(+) (-)を逆にして使用しないでください。
- 電池のアルカリ液が皮膚や衣服に付着した場合には、すぐに多量のきれいな水で洗い流してください。
- 電池の(+) (-)を針金などで接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒を持ち運んだり、保存しないでください。
- 付属の電池は充電式に造られていません。充電すると液漏れ、発熱、破裂のおそれがあります。
- 使い切った電池はすぐ機器から取り出してください。
- 長期間機器を使用しない場合には、機器から電池を取り出してください。電池を入れたままにしておくと液漏れがあり危険です。

注意

- 電池を落下させたり、投げつけたりして強い衝撃を与えないでください。
- 電池の外装ラベルをはがしたり、傷つけないでください。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ニッケル系乾電池(オキシライド乾電池など)は絶対に使用しないでください。
- 充電式(ニカド・ニッケル水素など)電池を使用しますと、機器が持っている性能を発揮できないことがあります。(機器が誤作動するなど)
- 電池の消耗により正常に作動しない場合があります。その際は新しい電池と交換してください。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使用してください。

各部の名称とはたらき



梱包部品一覧

お買い上げ後、同梱の部品を確認してください。

本体	1個	取付金具固定木ネジ(長)	4個
取付金具 (本体に取付済)	1個	補完板 (取付金具に取付済)	1個
取付金具用ネジ+ワッシャー+スプリング		補完板取付ネジ (取付金具に取付済)	2個
ワッシャー (取付金具に取付済)	4個	リモコン	1個
配線器具固定ネジ	2個	リモコンケース	1個
免震パッド	8個	リモコン用単4形乾電池 (お試し用)	2本
ワッシャー	6個	リモコンケース取付ネジ	2本

取り付けかた

取り付け前の確認事項

1. 取り付ける天井の状態を確認する

・右図[取り付けることのできない天井]のような天井になっていないことを確認してください。

 警告	お客様ご自身で取り付ける場合は、重量物のため必ず2人以上で作業する。
--	---

2. 取り付ける天井についている配線器具を確認する

配線器具が以下のようなものである場合は取り付けできません。

- ・取り付けできない配線器具
 - ・電源端子が露出しているもの
 - ・破損しているもの
 - ・取り付けが不十分でグラグラするもの
 - ・ケースウェイに取り付けてあるもの
 - ・配線だけのもの

取り付けられている配線器具が右図 [取り付けることのできる配線器具] にあるか確認してください。

- ・天井に右図 [取り付けることのできる配線器具] ○取り付けられるような配線器具が設置されていれば、取り付けことができます。
- ・×取り付けられない場合は、使用できません。販売店・工事店にご相談ください。
- ・△天井にネジ留めで取り付けられる場合は、天井に直接固定させるため、天井が補強されている必要があります (天井裏側に「はり」などがある状態)。

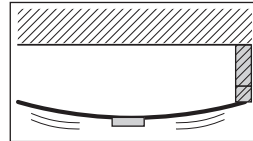
配線器具が設置されていない場合や、取り付けできない配線器具でも交換により取り付けできる場合がありますので、販売店・工事店にご相談ください。

3. 取り付ける電源 (壁スイッチなど) に調光機能がないことを確認する

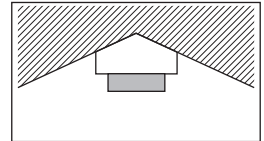
調光機能のついた電源 (壁スイッチなど) の場合、使用できません。販売店・工事店にご相談ください。

※右のイラストのようなスイッチ以外でも、調光機能の付いたスイッチは使用できません。

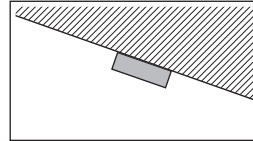
[取り付けることのできない天井]



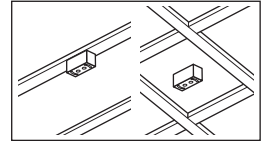
たわむ天井 補強のない天井



船底天井



傾斜した天井

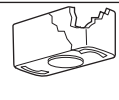


竿縁天井 格子天井

[取り付けできない配線器具] × 取り付けられない



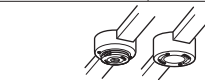
電源端子が露出しているもの



破損しているもの



取り付けが不十分でグラグラするもの



ケースウェイに取り付けてあるもの



配線だけのもの

[取り付けることのできる配線器具]

△
天井にネジ留めで
取り付けられる



丸型シーリング

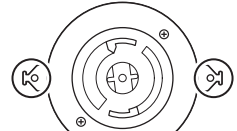
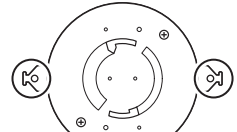
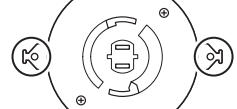


丸型シーリング



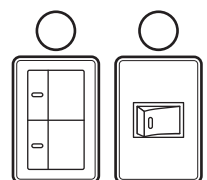
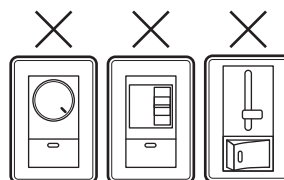
角型シーリング

○
取り付けられる
○=ネジ位置



調光機能付

スイッチのみ

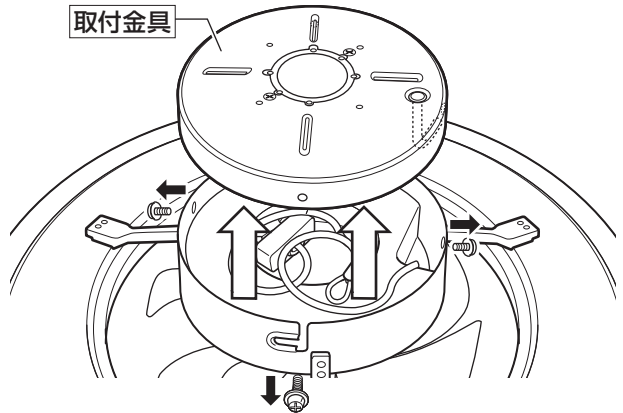


取り付けかた (つづき)

本体取り付けの準備

1. 取り付けられている取付金具を取りはずす①

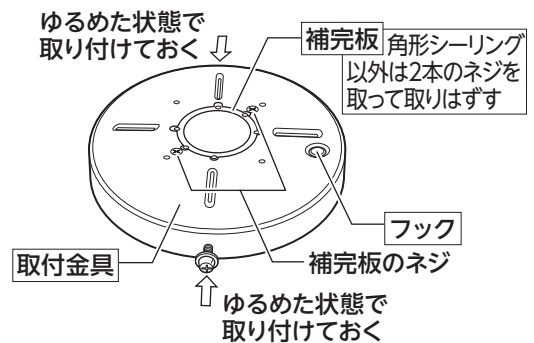
取り付けられている4本のネジをはずして取りはずします。



2. 取りはずした取り付け金具に取りはずした2本のネジをゆるめた状態で取り付けしておく②

取り付けなかった2本のネジは最後に固定させるときに使用するので、なくさないようにご注意ください。

※ゆるめた状態で取り付けしておくネジは、そこに引っかける形で本体を取り付けますので、本体を十分保持できるようにしておいてください。



3. カバーを取りはずす③

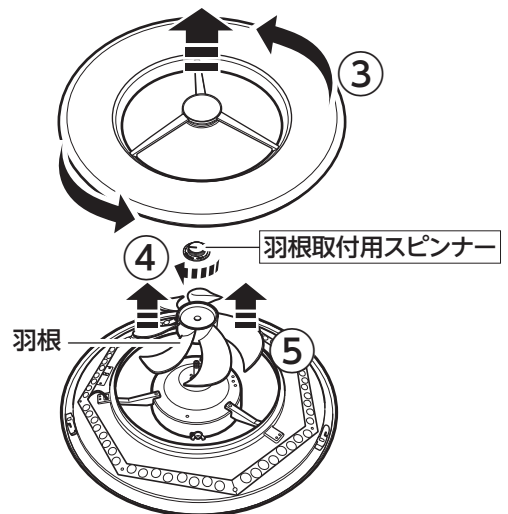
カバーを取りはずすには、カバー全体を左(反時計)に回して取りはずします。

4. 羽根を押さえ、羽根取付用スピナーを右(時計)に回して取りはずし④、羽根を取りはずす⑤

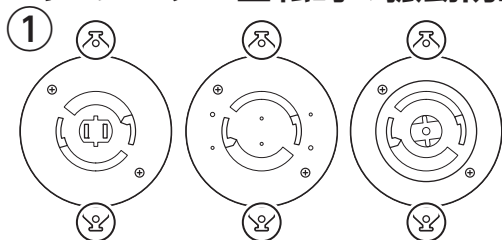
※羽根取付用スピナーを回すときは、羽根を押さえないと、取りはずすことができません。

※羽根取付用スピナーを紛失しないように注意してください。

カバー・羽根の取りはずしかた



サーキュレーター回転時の振動防止免震パッドの貼り付け



①の引掛シーリング2点ネジ止め取り付けで 사용되는場合、取り付け状態によっては、一部の回転数でサーキュレーター回転による筐体の振動が発生することがあります。

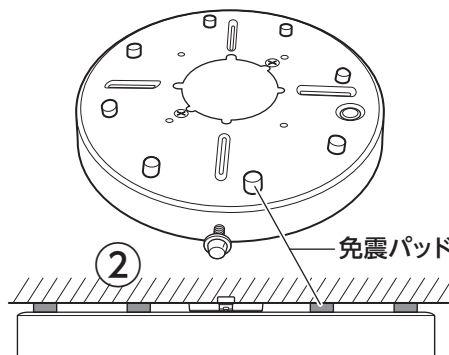
そのような場合、②のように付属の免震パッドを円周に貼り付けると振動が軽減されます。

取り付け金具に8箇所免震パッドを貼り付けたあと、引掛シーリングに取り付けてください。

斜めから見た図



天井に付いている
引掛シーリング



横から見た図

取付金具の取り付けかた

○取り付けられる配線器具の場合

1. 配線器具に取付金具を当てて、ネジ穴を確認する

配線器具に取付金具を当てて、ネジ穴を確認します。

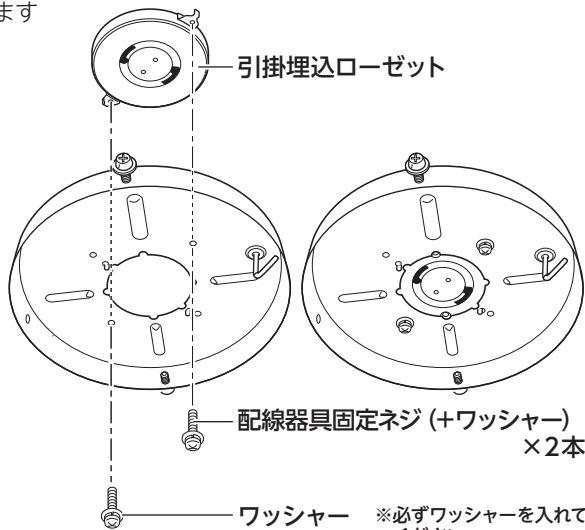
- 2つのネジを取り付けられるようになっています。
- 配線器具の両脇にある耳のネジ穴を使用します。

2. 配線器具に取付金具を付属の配線器具固定ネジ2本を使って取り付ける

配線器具の横に出た取付金具を当てて、ネジ穴を確認します。

配線器具への取り付け

円形のネジ穴に、付属の配線器具固定ネジ2本で取り付けます



※必ずワッシャーを入れてください



注意

- 配線器具固定ネジは2本とも、最後まで密着するまで締め付ける。
- 角形シーリング以外 (引掛埋込ローゼット: 右図) に取り付けるときは、必ず補完板を取りはずす。

取り付けかた (つづき)

△天井にネジ留めで取り付けられる配線器具の場合

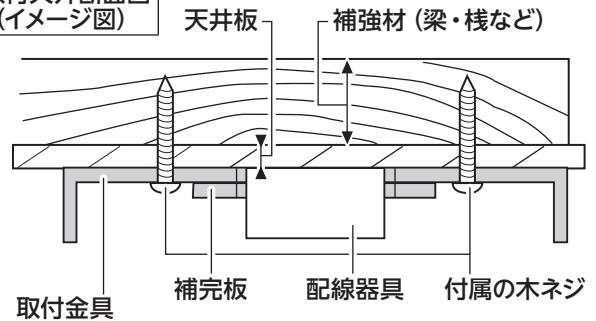
1. 配線器具の周辺は丈夫であるか、木ネジ使用できるか確認する

配線器具の周辺に本体 (約4kg) を維持できる補強材があるか確認してください (右図参照)。

- ・配線器具の出しろが22mmを超える場合、本体側が取り付けられない場合があります。そのときは、販売店・工事店にご相談ください。

※配線器具の周辺に本体 (約4kg) を維持できる補強材があるか確認してください

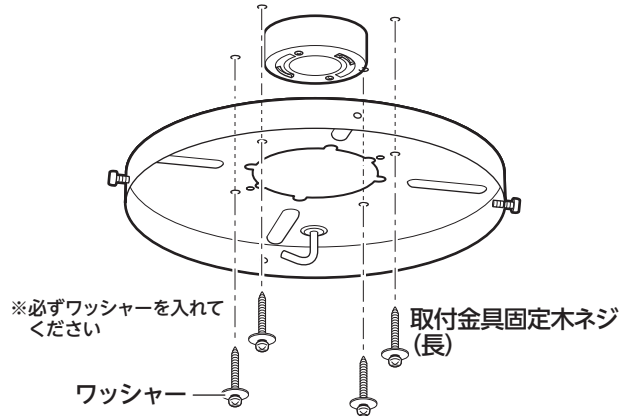
取付天井断面図 (イメージ図)



2. 配線器具を中心にして、取付金具を付属の木ネジ4本を使って取り付ける

配線器具を取付金具の中心の穴に通し、付属の木ネジ (または天井板素材に合ったネジ) を使って天井に取り付けてください。

- ・角形シーリング以外は、補完板をはずしてください。
- ・木ネジ (または天井板素材に合ったネジ) は必ず取付金具上の4つの穴を通してください。

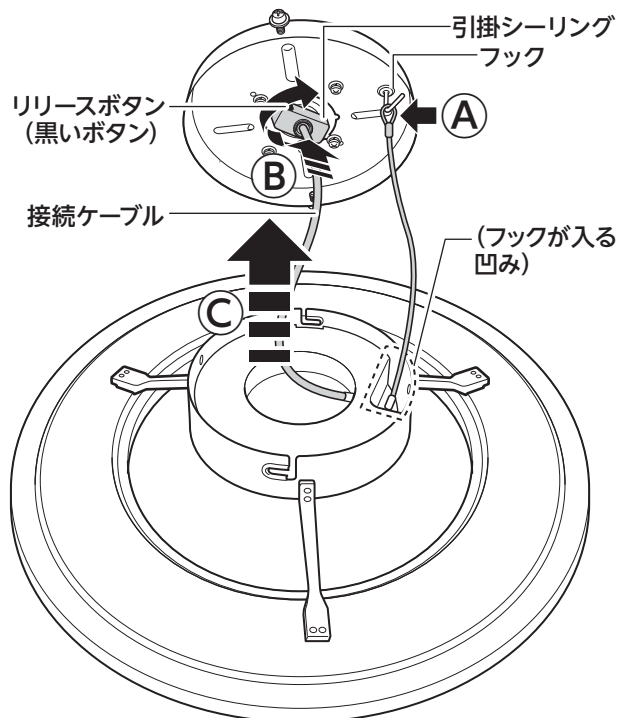


本体の取り付けかた

- ・本体取り付けは必ず2人以上で行なう。本体の重量があり、ひとりでの作業には無理があり、事故の原因になります。
- ・明るい場所で取り付ける

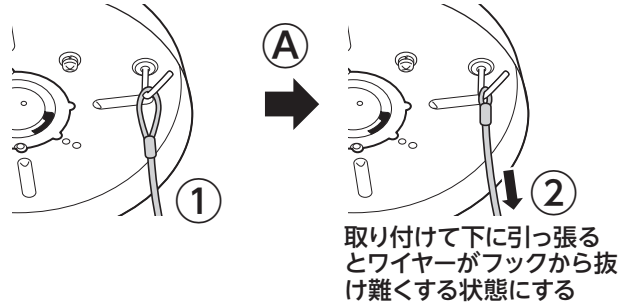
1. 電源 (壁スイッチなど) を切にする

- ・取り付けをするときや、お手入れをするときは必ず電源を切にする。感電・やけどの原因になります。



2. 天井の取付金具のフックに本体のワイヤーを取り付けるⒶ

- ① フックにワイヤーの先にある輪を入れます。
- ② ワイヤーを引っ張って、フックから抜けにくい状態にしてください。
ワイヤーの先にある輪が小さくなり、ワイヤーがフックから抜けにくくなります。

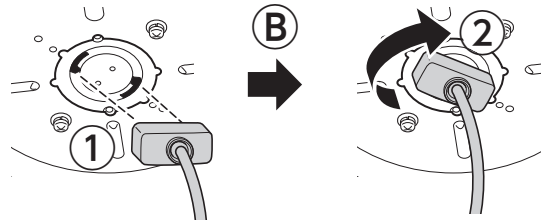


フックと本体側の凹みの位置に注意

本体側にはフックが入る凹みがあり、右上図のようにその凹みの真上でフックに取り付けないと、取付金具と本体を取り付けることができなくなります。

3. 配線器具に引掛シーリングを取り付けるⒷ

- ① 配線器具へ本体から出ている引掛シーリングの2本の引っ掛け刃を挿し込みます。
 - ② 「カチッ」という音がするまで右に回します。ロックされてはずれなくなります。
- ・ やりなおす場合、リリースボタン（黒いボタン）を押すとロックが解除され、はずれるようになります。



注意

リリースボタン（黒いボタン）を押さないで回してみても、はずれないことを確認する。
取り付けが不十分だと、落下してけがの原因になります。

4. 天井の取付金具に本体を取り付けるⒸ

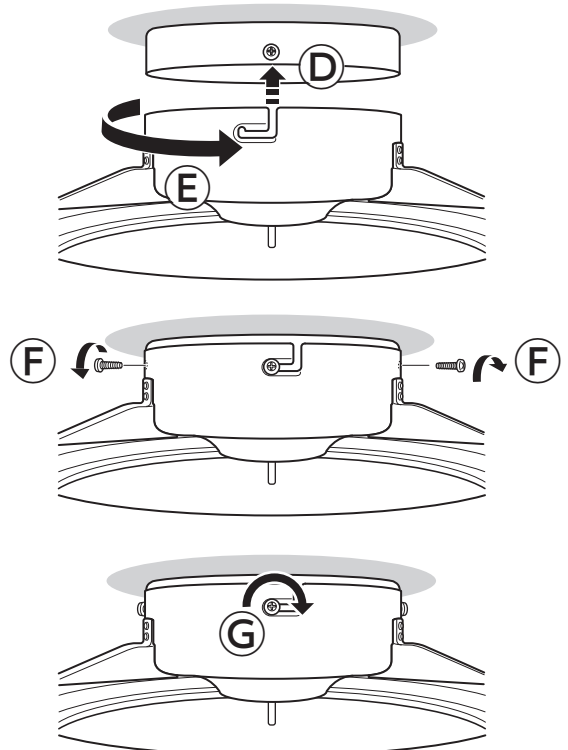


警告

本体取り付け時に、接続ケーブルをはさまないようにする。
感電・火災の原因になります。

- ① 取付金具のゆるめておいたネジ2本に、本体のカギ型の筋を差し込みⒹ、右（時計回り）方向に最後まで回しますⒺ（まだ締めないでください）。
 - ・ ゆるめておいた2本のネジの状態によっては落下の危険がありますので十分ご注意ください。
 - ・ 接続ケーブルを本体中心部におさめるようにし、ケーブルもフックからはずれないように凹み部分におさめるようにしてください。
- ② 「取り付けかた」（6ページ）ではずしておいたネジを取り付けてくださいⒻ。
 - ・ 本体を動かせる範囲でネジ穴を探してネジを取り付けてください。
 - ・ ①でネジを締めしまうと、ネジ穴を合わせることが難しくなります。
- ③ ゆるめてあったネジを締めⒼ、確実に取り付けられたか確認してください。
 - ・ 本体が回転しない
 - ・ 本体がガタガタ・グラグラしない
 異常が認められましたら一度取りはずして、取り付け直してください。

取付金具への取り付け



取り付けかた (つづき)

羽根・カバーの取り付け

5. モーター軸の形状と羽根の穴の形状を合わせて羽根を取り付ける①

羽根の穴の凹みとモーター軸の根元のピン (横棒) を合わせるようにしてください。

6. 羽根を取り付けたあと、羽根を押さえ、羽根取付用スピナーを左 (反時計回り) に回して取り付ける②

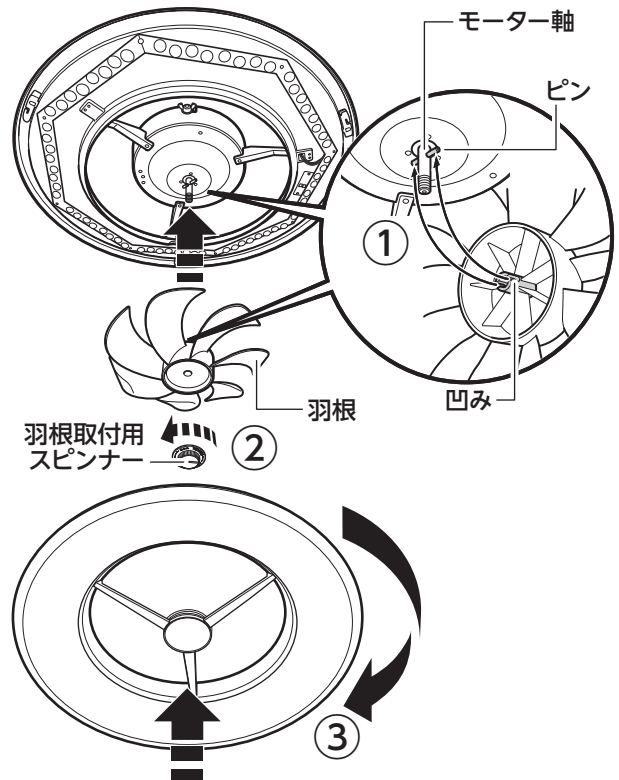
※羽根取付用スピナーを回すときは、羽根を押さえないと、取り付けることができません。

※羽根取付用スピナーを取り付けるとき、強くしめすぎると、破損させる恐れがありますのでご注意ください。

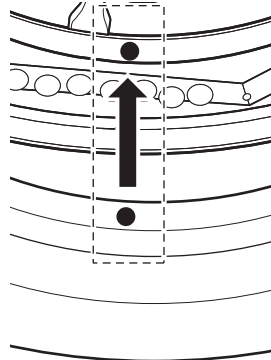
7. カバーを本体側に押し付け、右 (時計回り) 回しにして取り付ける③

本体内側に●マークがあり、カバーにも●マークがあります。これらを合わせるように押し付け、右 (時計回り) 回しにして取り付けてください。

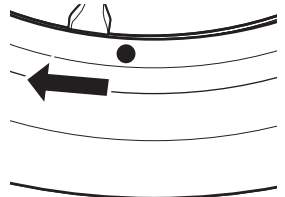
羽根の取り付けかた



本体内側の●マークと、カバーにある●マークを合わせます



カバーがぴったり入ったら、右 (時計回り) 回しにして取り付けてください



警告	カバーを取り付けずに運転をしない。 事故・故障の原因になります。
注意	- 羽根のエッジやモーター軸などでけがをしないよう、十分に注意する。 - モーター軸はサビの原因になるので素手で触らない。

リモコンの準備

下記の手順で付属の電池（単4形乾電池）を入れてください。

1. リモコン裏の電池ぶたを開く

電池ぶたの「OPEN」部分を押しながら手前の方へスライドさせて開きます。

2. ⊕と⊖の向きに注意して、電池を入れる

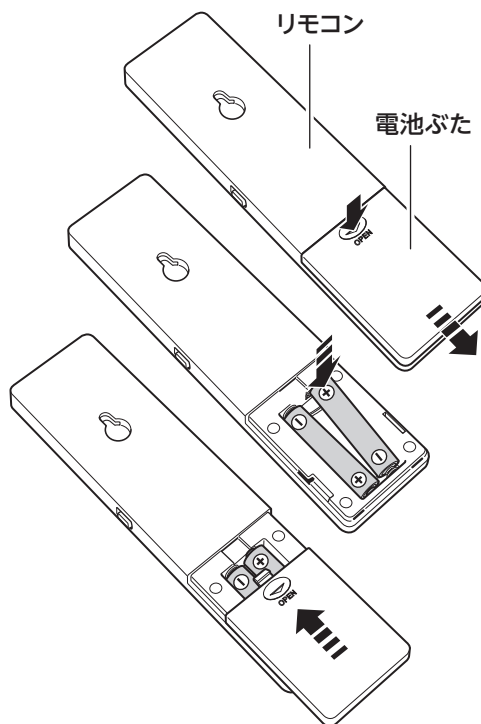
電池ぶたをはずして、電池を入れてください。

3. 電池ぶたを閉める

電池ぶたを右図の矢印の方向へスライドさせて閉めます。カチッと音がするまで押し込んでください。

- ・リモコンと本体の受信部の間に障害物がある場合は、リモコンが正常に動作しないことがあります。

※ 3ページの乾電池に関する安全上の注意を確認してください。

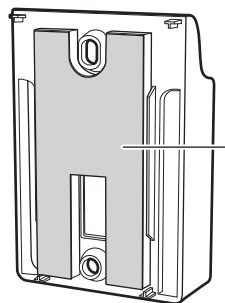
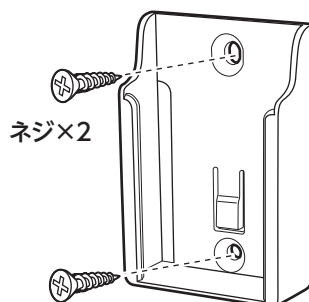


リモコンケースを設置する

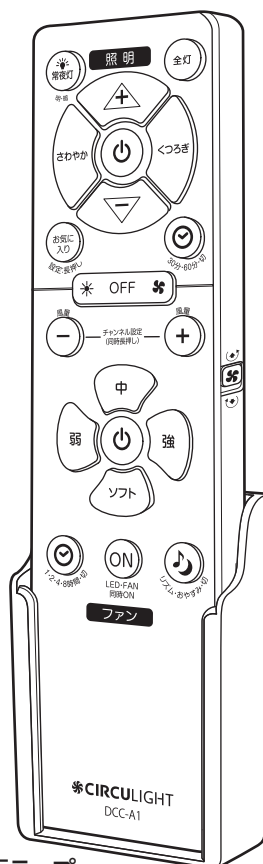
付属のリモコンケースは、リモコン反応を確認のうえ、背面にある仮止め両面テープで仮止めをしてください。設置場所が決まりましたら、付属のネジを使用して設置してください。

※ 設置場所によってはリモコンケースに入れたまま操作しても、本製品は反応しないことがあります。

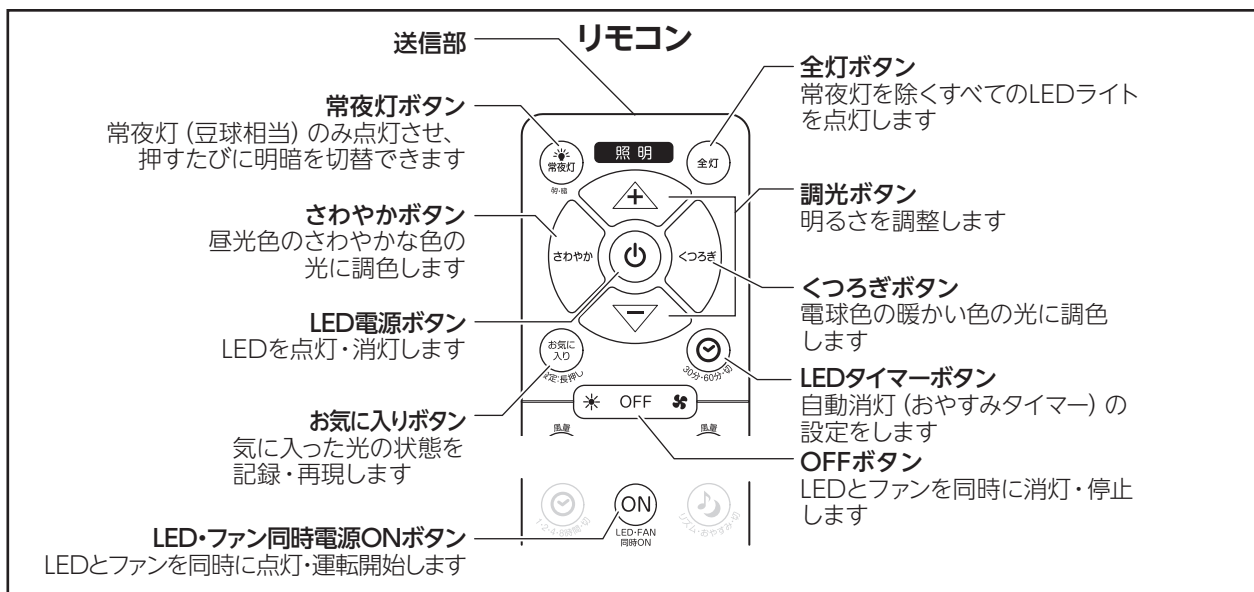
リモコンケース



仮止め両面テープ
はくり紙をはがして貼り付けてください。



正しい使いかた《LED》



LEDの点灯・消灯

1. 電源 (壁スイッチなど) を入れてから リモコンの $\odot$ 全灯ボタンを押す

正常に接続されていると、調光100%で点灯します。

・点灯しない場合、接続に問題があることがあります。電源 (壁スイッチなど) を切って、以下の点を確認してください。

- ・配線器具と引掛シーリングの接続
- ・引掛シーリングと配線器具との接続を目視で確認

上記接続に問題がないことを確認してから電源 (壁スイッチなど) を入れてください。

2. リモコンの $\oplus$ 調光ボタン・ $\ominus$ さわやか/くつろぎボタンを押して調光・調色する

$\oplus$ 調光ボタン・ $\ominus$ さわやか/くつろぎボタンを押すことで調光・調色します。

操作が無効になる (ボタンを押してもそれ以上変化しない場合) と「ピー」音が鳴ります。

- ・ $\oplus$ 調光ボタンは、押すたびに少しずつ明るく (もしくは暗く) になります。
- ・ $\ominus$ さわやか/くつろぎボタンは、さわやかボタンで昼光色のさわやかな色、くつろぎボタンで電球色の暖かい色に調色することができます。

$\odot$ 全灯ボタン	本機で通常使用されるLEDすべてが点灯します (常夜灯は除く)
$\odot$ 常夜灯ボタン	常夜灯 (豆球相当) のみ点灯させ、押すたびに明暗を切替できます
$\odot$ LED電源ボタン	本体電源の入/切 (ON/OFF) をします
$\oplus$ 調光ボタン	押すたびに少しずつ電球色に近くなります
$\ominus$ さわやかボタン	押すたびに少しずつ昼光色に近くなります
$\oplus$ 調光ボタン	$\oplus$ を押すことで、光が強くなり、 $\ominus$ を押すことで光が弱くなります
$\odot$ お気に入りボタン	気に入った光の状態を $\odot$ お気に入りボタンを長押しすることで、記録させておくことができます
$\odot$ LEDタイマーボタン	押すことでおやすみタイマーを設定することができます 本体からの音でおやすみタイマー設定できます
$\odot$ LED・ファン同時電源ONボタン	LEDとファンを同時に点灯・運転開始します

3. 常夜灯を点灯するときは、常夜灯ボタンを押す

常夜灯ボタンを押すと、全体のLEDが消灯し、常夜灯が点灯します。常夜灯ボタンを押すたびに、常夜灯の明るさが2段階に変化します。

- ・常夜灯を消灯させるにはLED電源ボタンを押すか、電源(壁スイッチなど)を切ってください。

4. おやすみタイマーを設定する

点灯時、LEDタイマーボタンを1回押すと、30分後に自動で消灯します。2回押すと、60分後に自動で消灯します。タイマーを解除するときは、もう1度押してください。

- ※解除されたとき、タイマー設定時よりも長く音が鳴ります。

おやすみタイマーの音

音のイメージ	ピッ	ピピッ	ピー
タイマー時間	30分	60分	解除

5. リモコンで消灯／点灯するときは、LED電源ボタンを押す

LED電源ボタンを押すと、ファンに関係なくLEDのみ消灯／点灯をすることができます。

6. リモコンのOFFボタンまたは壁スイッチで消灯する

OFFボタンを押すと、壁スイッチで電源を切ったときのように、LEDとファンが同時に停止します。

- ・どちらかのみ電源を切る場合は、LED電源ボタンまたはファン電源ボタンを押して電源を切ります。

壁スイッチメモリー

壁スイッチで入・切する場合、壁スイッチで切った最後の状態で点灯します。

リモコンメモリー

電源ボタンで切(OFF)にした最後の状態で点灯します。(常夜灯はメモリーされません)

リモコンでの便利な使いかた

OFFボタン

OFFボタンを押すと、壁スイッチで電源を切ったときのように、LEDとファンが同時に停止します。



長期間使用しないときは、壁スイッチで電源を切る。

OFFボタンで電源を切ると、リモコンの待機のため待機電力を消費します。

LED・ファン同時電源ボタン

LEDとファンを同時に点灯・運転開始します。

壁スイッチで電源を入れると、LEDのみ電源が入るため、OFFボタンと併用することにより、LEDとファンを同時に点灯・運転開始させることができます。

お気に入りボタン

気に入った光の状態をお気に入りボタンを長押しすることで、記憶させておくことができます。

1. LEDライト部の設定をしてお気に入りにしたい状態にする

2. お気に入りボタンを長押しする

本体からピピピッとブザー音がしたら登録完了です。

チャンネル設定

同じ製品が2台ある場合、本体とリモコンにチャンネルを設定することで、独立して操作することができます。《「本体とリモコンのチャンネルを設定する」(15ページ)参照》



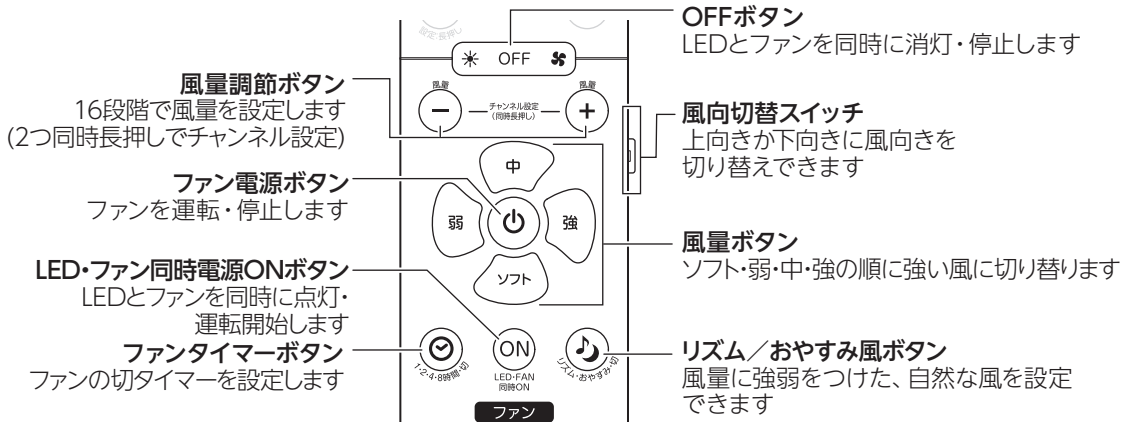
使用後は必ず消灯し、長時間使用しない場合は、電源を切る。
火災・故障の原因になります。



リモコンが近くの他の機器を操作してしまう場合は、本機または別の機器のチャンネルを変更するか、離れた場所に移動させる。

正しい使いかた《ファン》

リモコン



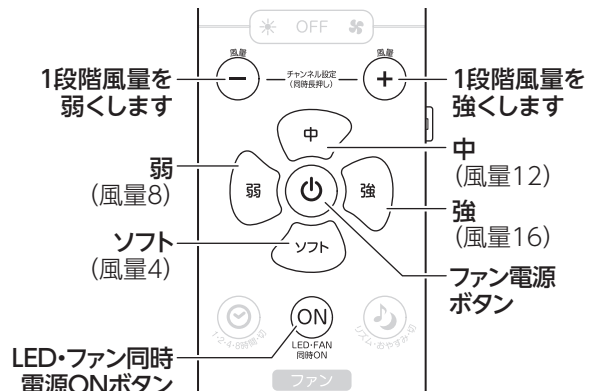
運転を開始／停止する

1. 運転を開始する

リモコンのⓂ️ファン電源ボタンを押すと、ファンの運転を開始します。

- 通常の使用時にはメモリー機能により、前回停止時の風量で運転を開始します。
- 最初に本体またはリモコンのⓂ️ファン電源ボタンを押したときには、弱い風量のソフト運転を開始します。
- ファンはリモコンでのみ運転を開始させることができます。壁スイッチで電源を切った場合、次に電源を入れた時にファンが運転を開始することはありません。
- リモコンのⓂ️LED・ファン同時電源ボタンを押すと、LEDの点灯とファンの運転を同時に開始させることができます。

風量の設定



2. 風量を調節する

リモコンにある4つの風量ボタンを押して風量を調節してください。

- ソフト・弱・中・強の順に強い風になります。

ⓈⓈ風量調節ボタンを使用することにより、4つの風量ボタンよりも細かく (16段階) 風量を設定することができます。

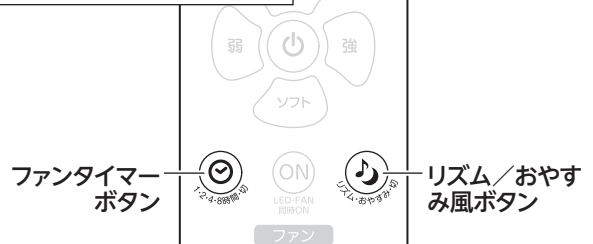
3. 切タイマーを設定する

運転中に、Ⓜ️ファンタイマーボタンを1回押すと、約1時間後に自動で消灯します。2回押すと約2時間後、3回押すと約4時間後、4回押すと約8時間後に自動で消灯します。

切タイマー設定

音のイメージ	ピー	ピーピー	ピーピーピー	ピーピーピーピー	ピーー
切タイマー	約1時間	約2時間	約4時間	約8時間	解除

切タイマーの設定、リズム／おやすみ風の設定



- 切タイマーをキャンセルするときは、Ⓜ️ファンタイマーボタンをもう一度押してください。ピーと音が鳴り、切タイマーがキャンセルされたことがわかります。

4. リズム／おやすみ風機能を作動させる

運転中にリモコンの④リズム／おやすみ風ボタンを押すと機能が切り替わります。

④リズム／おやすみ風ボタンを1回押すと、リズム風になり、2回押すとおやすみ風になります。もう1度押すと、普通の風に戻ります。

リズム／おやすみ風設定

音のイメージ	ピッ ・	ピーピッ ・・	ピー ー
リズム／おやすみ風	リズム風	おやすみ風	解除

リズム／おやすみ風機能について

リズム風

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。
風量を切り替えることで風量パターンが変化します。

おやすみ風

風量に強弱をつけ、自然な風を再現します。
本体またはリモコンで風量を切り替えることで次のように風量パターンが変化します。

- (強時) 強リズム風 → 中リズム風 → 弱リズム風
と時間とともに変化します。
- (中時) 中リズム風 → 弱リズム風 と時間とともに変化します。
- (弱時) 弱リズム風 と同じです。
- (ソフト時) ソフトリズム風 と同じです。

5. 運転を停止する

運転中にリモコンの⑤ファン電源ボタンを押すと、運転を停止します。

6. リモコンの[* OFF *]OFFボタンまたは壁スイッチで消灯・運転停止させる

[* OFF *]OFFボタンを押すと、壁スイッチで電源を切った時のように、LEDとファンが同時に停止します。

壁スイッチメモリー

壁スイッチで入・切する場合、壁スイッチで切った最後の風量で運転します。

リモコンメモリー

電源ボタンで切(OFF)にした最後の風量で運転します。

※ 壁スイッチ・リモコンともに、リズム風・おやすみ風はメモリーされません。風向きは風向切替スイッチの位置によります。

切り忘れ防止機能

最後に操作してから約12時間経過すると、ファンの運転が自動的に停止します。

本体とリモコンのチャンネルを設定する

同じ製品が2台ある場合、本体とリモコンにチャンネルを設定することで、独立して操作することができます。電源(壁スイッチなど)を入れてから、下記の手順で本体とリモコンのチャンネル設定をしてください。

1. 本体にリモコンを向けて、風量調節ボタン⊕と⊖を同時に長押し(約5秒)する

「CH1」に設定した場合 (ピーピッ)

ピーと長い音に続いて短いピッ音が1回鳴ります。

「CH2」に設定した場合 (ピーピーピッ)

ピーと長い音に続いて短いピッ音が2回鳴ります。

- ・出荷時は、本体・リモコンともにチャンネル1 (CH1) に設定してあります。
- ・《リモコンのみのチャンネル設定》本体のチャンネル設定を変えたくない場合は、本体にリモコンを向けないで(送信部を手で覆う、別の部屋で)チャンネル設定をしてください。

2. 2台の器具を設置する場合の設定

2台同時に操作する場合

本体1台目、本体2台目ともに本体を同じチャンネルに設定します。

- ・本体1台目をチャンネル1 (CH1)、本体2台目もチャンネル1 (CH1)、リモコンもチャンネル1 (CH1) に合わせます。

2台別々に操作する場合(部屋別で操作させたいなど)

- ・本体1台目はチャンネル1 (CH1)、本体2台目チャンネル2 (CH2)
- ・リモコン1台目はチャンネル1 (CH1)、リモコン2台目はチャンネル2 (CH2) に合わせます。



注意

- ・2台同じチャンネルにしている場合、器具間の距離やリモコン操作の方向により同時に動作しないことがあります。
- ・付属のリモコンの操作に関係なく本製品の明るさが切り替わる場合は、本体とリモコンのチャンネルを変更してください。

音のイメージ	ピー ピッ ー ・	ピー ピーピッ ー ・・
チャンネル	チャンネル1 (CH1)	チャンネル2 (CH2)

正しい使いかた《ファン》(つづき)

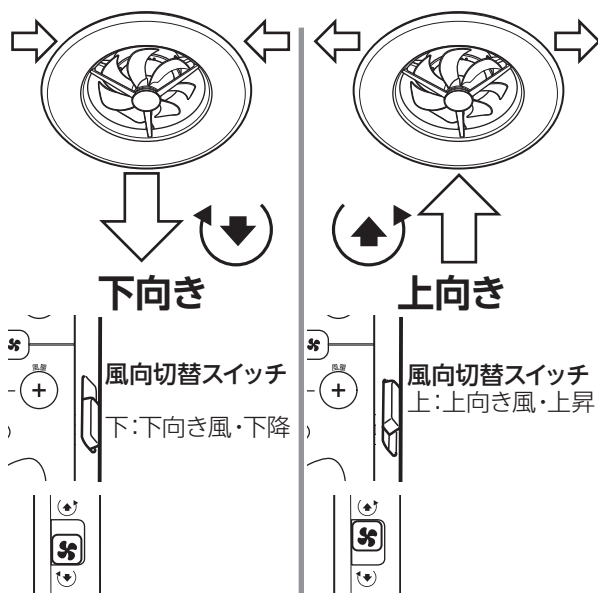
風向きを変更する

1. 風向切替スイッチで風向きを変更する

リモコンの横にある風向切換スイッチでファンの風向きを変更することができます。

- ・下:下向き風・下降 風を下向きにすることにより、体感温度を下げるすることができます。(冷房時に有効)
- ・上:上向き風・上昇 風を天井に当て、高いところにある暖かい空気を下に循環させることができます。(暖房時に有効)

※動作するまでしばらく時間がかかります。



注意

風向きの変更は、風向切替スイッチを操作後、一度電源を切ってから、再度運転を開始する際に有効になります。

運転中に風向切替スイッチを操作しただけでは、風向きは変わりません。

取りはずしのしかた



警告

取りはずしの際は、安全のため電源を切り、通電していないことを確認する。
感電・火災・やけどの原因になります。

取りはずしのしかた



警告

お客様ご自身で取り付けの場合は、重量物のため必ず2人以上で作業する。

お手入れするとき、別の部屋に移動させるとき、転居するときなど、次の手順で取りはずしをおこなってください。

1. 電源 (壁スイッチなど) を切にする
2. 本体を取付金具から取りはずす
取り付けたときの逆順で取りはずしてください。
3. 引掛シーリングのリリースボタン (黒いボタン) を押しながら回し、配線器具から取りはずす
4. フックからワイヤーを取りはずす
5. 天井から取付金具をははずす

お手入れのしかた



警告 お手入れの際は、安全のため電源を切り、通電していないことを確認する。
感電・火災・やけどの原因になります。

お願い

- ・住宅用洗剤やシンナー、ベンジン、アルコール、磨き粉などは絶対に使わないでください。
- ・本体に水をかけて洗わないでください（感電・故障の原因になります）。

お手入れのしかた

- ・明るく安全に使用していただくため、定期的に（6か月に1回程度）清掃してください。
- ・カバー内については、定期的に取りはずしてホコリをはらうなど、お手入れしてください。羽根は天井に取り付けたままでは羽根上面を十分にお手入れできないため、羽根取付用Spinnerを回して羽根を取りはずしてお手入れするようにしてください。
- ・汚れがひどい場合は、石けん水に浸した布をよくしぼってふき取ります。乾いたやわらかい布で水分をふき取り、十分乾いてから使用を開始してください。
- ・リモコンの送信部も定期的にお手入れをおこない、汚れをふき取ってください。汚れるとリモコンの効きが悪くなります。

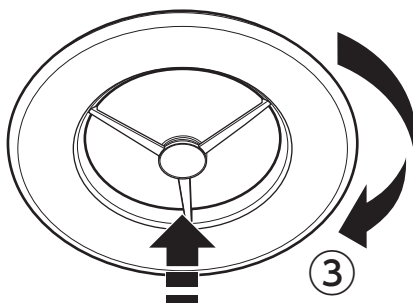
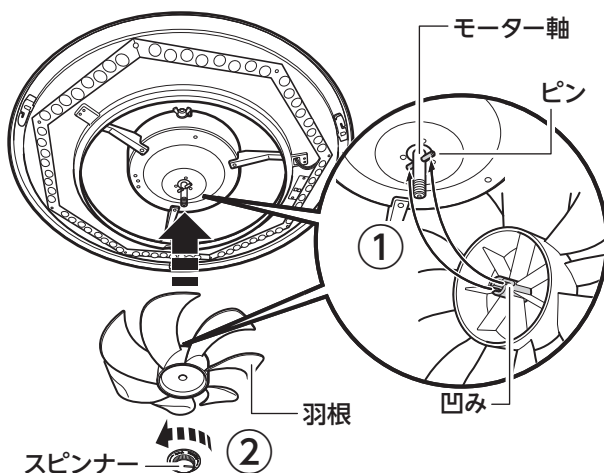
カバー・羽根の取りはずしかた

- ① カバー全体を左（反時計）に回して取りはずします。（カバーの取り付け取りはずしについては6ページ参照）
- ② カバーを取りはずしたあと、羽根を押さえ、羽根取付用Spinnerを右回しにして取りはずし、羽根を取りはずします。
※羽根取付用Spinnerを回すときは、羽根を押さえないと、取りはずすることができません。
※羽根取付用Spinnerを紛失しないように注意してください。

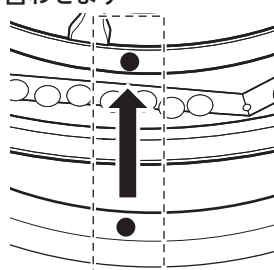
カバー・羽根の取り付けかた

- ① モーター軸の形状と羽根の穴の形状を合わせて羽根を取り付けます①。
- ② 羽根を取り付けたあと、羽根を押さえ、羽根取付用Spinnerを左に回して取り付けます②。
※羽根取付用Spinnerを回すときは、羽根を押さえないと、取り付けることができません。
※羽根取付用Spinnerを取り付けるとき、強くしめすぎると、破損させる恐れがありますのでご注意ください。
- ③ カバーを本体側に押し付け、右（時計）回しにして取り付けてください③。
本体内側に●マークがあり、カバーにも●マークがあります。これらを合わせるように押し付け、右（時計）回しにして取り付けてください。

羽根の取り付けかた



本体内側の●マークと、カバーにある●マークを合わせます



カバーがぴったり入ったら、右（時計）回しにして取り付けてください



警告 カバーを取り付けずに運転をしない。
事故・故障の原因になります。



注意 ・羽根のエッジやモーター軸などでけがをしないよう、十分に注意する。
・モーター軸はサビの原因になるので素手で触らない。

修理・サービスを依頼する前に



警告

修理技術者以外の人 は 分解したり修理をしない。

「故障かな?」と思ったときには次の点をお調べください。

症状	主な原因	処置
LED部		
点灯しない	電源（壁スイッチなど）が「切(OFF)」になっている	電源（壁スイッチなど）を「入 (ON)」にする
	ブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
	引掛シーリングと配線器具が確実に接続されていない	引掛シーリングと配線器具を確実に接続する
点灯中・消灯直後など異音がある	使用環境により電源部から多少の音が発生することがあります	問題ありません。気になる場合はドウシシャ お客様相談室まで、ご相談ください
サーキュレーター部		
羽根がまわらない	電源（壁スイッチなど）が「切(OFF)」になっている	電源（壁スイッチなど）を「入 (ON)」にする
	ブレーカーが「切」になっている	ブレーカーを「入」にする
	引掛シーリングと配線器具が確実に接続されていない	引掛シーリングと配線器具を確実に接続する
	羽根が正しく取り付けられていない	羽根を正しく取り付ける
	スピナーがゆるんでいるかはずれている	スピナーを正しく取りつける
突然運転が止まる	切り忘れ防止機能(15ページ)がはたらいている	リモコンの㊟ファン電源ボタンを押して運転を開始してください
	・タイマーボタンを押した	リモコンの㊟ファン電源ボタンを押して運転を開始してください
異音がある	・カバー・羽根が正しく取り付けられていない	カバー・羽根を正しく取り付ける
	・羽根取付用スピナーがゆるんでいる	羽根取付用スピナーを締めつける
	・天井へ正しく取り付けられていない	天井への取り付けを再度確認する
壁スイッチでファンが動作しない		壁スイッチの入切ではファンは動作しません
サーキュレーター動作時に振動・ブレがでる		本体金具取り付け後の天井材質、取付位置や傾斜、引掛シーリングなどの取付状態により、回転数によっては、若干の振動ブレが生じる場合があります。回転スピードをずらしていただく、もしくは回転数を落としてご使用ください(木ネジで4点止め、しっかりとした天井に取り付けることによってよりブレにくくなります)。
共通部		
リモコンが正常に動作しない	・リモコンの電池が正しく取り付けられていない	リモコンの電池を正しく入れなおす
	・リモコンの電池が切れて信号が送信されていない	リモコンの電池を新しいものにする
	・本体の受光部に信号が届いていない	障害物を取り除く、もしくは受信可能な範囲から操作する
	・リモコンのチャンネルが本体と一致していない	リモコンのチャンネルを合わせる

よくあるご質問

Q	停電復帰後に勝手に点灯してしまいます。
A	正常動作です。(壁のスイッチは「入(ON)」状態で、リモコンで「切(OFF)」にしていた場合) 通常の停電復帰時は、スイッチやリモコンを探す必要が無いよう、照明が点灯した状態で復帰する設定になっています。点灯中に停電などで一定時間電源が切れた場合、直前の点灯状態で点灯します。
Q	停電復帰後、勝手に点灯しないようにできますか。
A	壁スイッチを「切(OFF)」にしてください。照明器具側では設定できません。
Q	リモコンで電源を「切(OFF)」にしても、急に消灯しない。
A	正常動作です。本製品は急に消灯せずにゆるやかに消灯していきます。
Q	LED部またはサーキュレーター部が故障しました。
A	どちらかが故障した場合は、ご使用を中止して販売店またはドウシシャお客様相談室にご相談ください。

長年ご使用の場合はよく点検を

このような症状はありませんか？

- ・チカチカしたり点滅する。
- ・こげ臭い匂いがする。
- ・その他の異常・故障がある。



このような症状のときは、事故防止のため、すぐに電源を切り、必ず販売店またはドウシシャお客様相談室に点検をご相談ください。

長期使用製品安全表示制度に基づく本体表示について

(本体への表示内容)

※経年劣化により発火・けが等の事故の発生が高まるおそれがあることを注意喚起するために電気用品安全法で義務付けられた以下の内容の表示を本体に行なっています。

	[製造年](本体に西暦 4 桁で表示してあります)
	[設計上の標準使用期間](本体に表示してあります)
設計上の標準使用期間を超えて使用されますと経年劣化による発火・けが等の事故に至るおそれがあります。	

(設計上の標準使用期間とは)

※下表の標準的な使用条件の下で使用した場合に、製造した年から安全上支障なく使用することができる標準的な期間です。

※設計上の標準使用期間は、無償保証期間とは異なります。また、偶発的な故障を保証するものでもありません。

■標準使用条件(JIS C9921-1による)

環境条件	電圧	AC 100V	製品の取扱説明書による
	周波数	50Hz/60Hz	
	温度	30℃	
	湿度	65%	
	設置	標準設置	
負荷条件		定格負荷(風速)	
規定時間 など	運転時間	10h/日	
	運転回数	5回/日	
	運転日数	180日/年	
	スイッチ操作回数	900回/年	

●「経年劣化とは」

長期間にわたる使用や放置に伴い生ずる劣化をいいます。